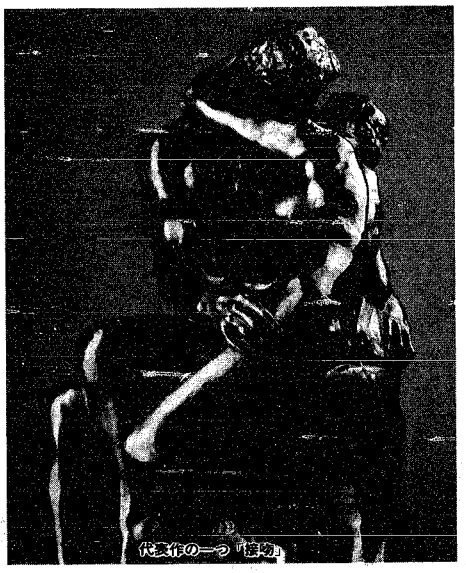
感激！ロダン展

ブロンズにとじこめられた愛の嵐、そして苦悩……


代表作の一つ「接吻」

市美術館では、初めての彫刻企画展として、世界中に知られ愛されている巨匠・ロダンの代表作を集めた展覧会を今、好評開催中です。三つの企画展示室をすべて使用し、県内ではかつてなかった規模の彫刻展です。新潟では今後、鑑賞できるチャンスが恐らくないだろうと言われています。

ロダン彫刻の魅力は…

展示室に一歩足を踏み入れると、皆さんの目をまず奪うのが「考える人」でしょう。高さ二㍍の大きな作品です。近代彫刻の代名詞のように言われるこの像は、「ボリューム」という言葉も代弁しているようです。今や柾谷小路、新潟駅前などには「考える人」より巨大な建物が林立する中で、なぜロダンの作品がわたしたちの目を奪って離さないのでしょうか。

「考える人」は粘土から誕生

ロダンは「考える人」をまず粘土で制作しました。

子供たちが大好きな粘土遊びに興じるように、ロダンも目で見、指で触りながら全神経を集中させて彫刻を完成させました。

ロダン彫刻の魅力の源泉は人間の本能が愛着を感じる粘土――土や石を使い、愛や悲嘆といった人間の根源的な主題を表現した点にあります。

「考える人」は、人間のあらゆる苦悩や運命について考える姿であり、主題の大きさが「もの」としての作品の大きさをはるかにしのぐボリュームで、わたしたちに感じさせます。

自分の視覚で美しさを発見

彫刻作品を鑑賞する楽しさは、作品をひと巡りするうちに予測もしなかった形を発見できる点にもあります。

テレビなど、他人の視覚による眺めから少し離れ、ロダン作品の背後に回って作品のきさをはるかにしのぐボリュームで、わたしたちに感じられるのです。

ローズ・ブーレ（ミニヨンのモデル）

ミニヨン

装飾職人だった二十四歳のロダンは、お針子のローズと半世紀におよぶ同せい生活を始めました。彼女は家計を支える一方、モデルを務め、粘土の乾燥を防ぐために夜通し、ぬれた布を取り替えるなど、献身的にロダンに仕えました。ロダンはその後、数多くの女性たちに心をひかれましたが、彼女が生涯にわたる心の休息の場でした。

カミーユ・クローデル

ロダンは、女性彫刻家グループの講師になり、カミーユと出会います。彼女は美ぼうの、上品で快活な十九歳の女性でした。その後ロダンの助手を務める一方、モデル、愛人として、数々の名作の霊感源となりましたが、ロダンとの愛と自己の芸術上の苦悩から、最後には狂死するという悲劇的な運命をたどりました。

ロダンをめぐる魅惑の人たち

(1840～1917年)

花子

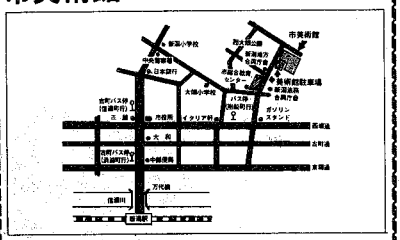
女優・花子（本名・太田ひさ）は、川上貞奴一行の踊り子として渡欧後、一座を結成しヨーロッパ各地で公演しました。ロダンは彼女が演じる断末魔の表情に魅せられ、モデルを頼みました。それは、幼少から人生の辛酸をなめて成長した彼女の生きざまと、演技の背後にある真の人格に魅力を感じたからでしょう。

ショワズール公爵夫人

ロダンの晩年の愛人で、彼から忠実な友人たちを遠ざけ、制作の時間を奪い、芸術面でも生活面でも好ましくない影響を及ぼした。後年、ロダンは「私は人生の七年間を無駄にした。彼女は私をばかにし、人々は彼女を信用した」と話していますが、出会いのころの彼女の肖像は肉感的で、開放的な性格がよく表現されています。

24日まで開催

市美術館（西大畑町5191-9、☎23-1622）


市美術館
新潟小学校
NHK放送局
日本郵便
大畑小学校
イタリア軒
ボウリングスタンド
大和
万代橋
佐渡汽船
新潟駅
西堀通
古町通
文化会館
新潟市文化センター
市民プラザ
新潟県総合運動場
新潟県庁
新潟県警
新潟県自動車運転免許センター
新潟県自動車運転免許センター
新潟県自動車運転免許センター